

いわて花巻空港中期ビジョンを作成

～ いわて花巻空港の一層の利用促進に向けて ～

空港課

県では、いわて花巻空港の利用促進に向けて、今後の目標を明確にして関係部局が連携して取り組むため、概ね今後3ヵ年（H22～H24）程度を目途とした国内及び国際便の誘致等に関する中期的な計画である「**いわて花巻空港中期ビジョン**」を作成しました。

本ビジョンは、県として全庁を挙げて取り組むために作成したのですが、県民の皆様にもご理解とご協力をいただきながら、いわて花巻空港の利用促進に向けて取り組んでいきます。

～ いわて花巻空港中期ビジョンの概要 ～

1 背景と位置づけ

- ・ 平成10年度から進めてきた**空港整備事業が来年7月頃に概ね完成**する。
- ・ 景気の低迷や日本航空の経営破たんに伴い、いわて花巻空港の定期路線は大阪（伊丹）札幌の2路線のみとなり、さらに厳しい状況に置かれている。
- ・ 海外航空会社の使用機材の逼迫や他空港との誘致競争の激化、隣県空港の国際定期便との競合等により国際チャーター便が伸び悩んでいる。
- ・ **定期路線網の立て直し・充実が喫緊の課題**であり、**ハード・ソフト両面での国際線受入態勢の整備**が必要となっている。

2 国内線 ～リージョナルジェットの利用による路線ネットワークの充実～

- ・ 国内定期路線を**4路線程度、1日計11往復程度**の多頻度化を図り、利用者の利便性向上とネットワークの充実を図る。
- ・ **平均利用率を10ポイント（54%→64%）向上**させ、**利用者数を約45万人まで回復**させる。

3 国際線 ～国際定期便の誘致により、いわての本格的な国際化の幕開けを～

- ・ **台湾及び韓国**の**近距離便**について、早期の定期便化に向けたチャーター便の運航実績の拡大を図り、**2路線程度、合わせて週5～7便程度の国際定期便の就航**を図る。
- ・ 国際線の**利用者数を年間約6万3千人まで拡大**させる。

工程表及び数値目標

(国内線)～リージョナルジェットの利用による路線ネットワークの充実

年度	現状(H21)		H24	
	路線及び便数	機材	路線及び便数	機材
		3路線 8往復/日	4路線 11往復/日	小型J×2 RJ×9
利用者数	利用率	約35万6千人 53.6%	約45万人 64%	

(国際線)～花巻空港の開港化により、いわての本格的な国際化の幕開けを

年度	現状(H21)		H24	
	便数	機材	便数	機材
	チャーター便71便	インバウンド 50便 アウトバウンド 12便	定期便2路線 チャーター便28便	週5便
利用者数	約9千3百人	インバウンド 7,703人 アウトバウンド 1,616人	約6万3千人	定期便 5万6千人 チャーター便 5千人

新規路線等の誘致実現のための対策

① 内外への誘致活動（エアポートセールス・観光庁等）の強化
→ 官本県及びいわて五箇空港の統合推進

② 過年度の観光高材等の提供
→ イベントや季節もののみならず、全年に観光高材の提供

③ 双方向での需要の拡大（特にアウトバウンドの需要喚起）
→ 機材確保、運賃交渉の積極的な推進

いわて花巻空港中期ビジョンの詳細は、空港課ホームページをご覧ください！

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=861&of=1&ik=3&pnp=17&pnp=66&pnp=788&pnp=861&cd=26180>